

蚊に対する対策

春木 宏介

防衛医科大学校医学教育部衛生学

わが国のマラリア予防ガイドライン作成に向けて蚊に対する対策防衛医科大学校医学教育部衛生学講座 春木宏介マラリア予防ガイドラインは薬物療法を中心に考えられがちである。薬物によるマラリアの予防、治療は予防ガイドラインの中心を占める。しかしながら真の予防医学的観点から見た場合、蚊に刺されないことが最も副作用のない予防方法である。蚊に刺されなければ薬物療法も不要であり、その意味で個人的防蚊対策は内科的には耐糖能異常における食事療法、運動療法に匹敵するといえる。マラリア伝播のなかで蚊によらないものとしては輸血など血液を介した特殊な感染様式もあるが実際の感染は主として蚊によって起こるためここでは言及しない。主として一般論と経験から意見を述べたい。マラリア媒介蚊であるアノフェレスの対策として、公衆衛生学的には幼虫コントロールも重要であるが個人的防御方法はもっぱら成虫が対象となる。防御方法としては1 正確な知識を得る。2 蚊の家屋への進入阻止。3 服装。4 蚊帳などの防御器具。5 昆虫忌避剤の使用。6 蚊取り線香などの殺虫剤の使用。7 行動様式の変革。8 環境対策。などがあげられる。それぞれに長所と短所がありこれらをうまく組み合わせて行っていく。1 正確な知識を得る。渡航先のマラリアの流行度、媒介蚊に関する知識。2 蚊の家屋への進入阻止。網戸などの設置。3 服装。長袖の白っぽい服。4 蚊帳などの防御器具。就寝は蚊帳の中で。5 昆虫忌避剤の使用。使用方法と禁忌。6 蚊取り線香などの殺虫剤の使用。使用方法と製品選択。7 行動様式の変革。夜の過ごし方。8 環境対策。敷地内の蚊発生源の除去。会場からの指摘や批判、追加発言によってマラリアガイドラインの蚊対策について充実を図りたい。